

<b>単元名: せかいのことを知ろう</b>		
氏名: 福田 優那	学校名: 西宮市立安井小学校	
担当教科: 全教科	実践教科: 道徳、学級活動	
時間数: 5時間	対象学年: 2年	人数: 28人
使用教材: Canvaスライド、世界地図、写真、ペルーと日本の生活に関する実物資料、ワークシート		

**【実施概要】**

<b>【1】単元の目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルーと日本の文化や生活を比較し、共通点や違いに気づくことで、世界の多様性に親しみをもつことができる。</li> <li>自分たちの文化を大切にしながら、異なる文化を尊重しようとする態度を育てる。</li> <li>ペルーの友だちのことを知ろうとする気持ちをもち、自分の好きなものや考えを伝えようとする意欲を高める。</li> </ul>			
<b>【2】単元の評価規準</b>	(ア) 知識・技能	ペルーと日本の文化や生活の特徴を理解し、写真や実物を通して違いや共通点を説明できる。	
	(イ) 思考・判断・表現	比較活動や交流を通して気づいたことを自分の言葉で表現し、ペルーを表す言葉や感想を考えられる。	
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	ペルーについて知ろうとする意欲をもち、自分の好きなものや考えを進んで伝えようとする姿勢が見られる。	
<b>【3】単元設定の理由</b>	<p>本学年には、外国籍の児童や外国にルーツをもつ児童が在籍しており、今後もそのような子どもと関わる機会は増えると考えられる。だからこそ、互いの違いを認め合い、誰もが安心して学べる環境の中で、自然に友だちとして関われる子どもを育てたいという思いがある。異文化理解の学習は、こうした態度を育てるための大切な機会である。</p> <p>児童は低学年であり、抽象的な国際理解よりも、身近な生活や遊びを通じた具体的な比較活動に強い関心を示す。そこで、ペルーと日本の文化や生活を「写真」「実物」「食べ物」など視覚的・体験的な教材で提示し、楽しみながら違いや共通点を見つける活動を中心に構成した。また、学習を進める中で、ペルーの友だちのことを知り、自分の好きなものや考えを伝える活動を取り入れることで、単なる知識の習得にとどまらず、互いを尊重しようとする態度やコミュニケーション意欲を育てることを重視している。</p> <p>さらに、この単元は、教師海外研修で得た現地の教育や文化に関する知見を活かしている。研修を通じて、ペルーの子どもたちが日本に関心をもち、互いに学び合う姿を見たことから、児童にも「世界とつながる」体験を提供したいと考えた。異文化との交流を通して、児童が「違いは面白い」「もっと知りたい」という前向きな気持ちをもつことを目指している。</p>		
<b>【4】展開計画(全5時間)</b>			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 道徳 本時	ペルーと日本の文化を比べよう	<ol style="list-style-type: none"> <li>ペルーの場所や特徴をスライドで確認する。</li> <li>日本とペルーの町やスーパーの写真を似たアングルで提示し、どちらが日本かペルーかを考え、理由も発表する。</li> <li>ペルーと日本の実物資料(通貨、食品、衣装など)を手に取り、違いや共通点をワークシートに記入する。</li> <li>ペルーを表す言葉を考え、ふりかえりを書く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Canvaスライド①</li> <li>世界地図</li> <li>写真(ペルー・日本)</li> <li>実物資料(通貨、食品、衣装など)</li> <li>ワークシート①</li> </ul>

2 道徳	ペルーの学校と日本の学校を比べよう	①ペルーの小学校の建物や授業の様子、教師がペルーの小学生と遊んでいる写真をスライドで提示する。 ②日本の学校と比べながら、昼食・遊び・体育・授業の違いを考え、ワークシートに記入する。	・Canvaスライド② ・ペルーの学校紹介動画  ・ワークシート②
3 学級活動	自分の好きなものを考えよう	①ペルーの子どもたちに伝えたい自分の好きなもの(教科、遊び、食べ物、キャラクターなど)を整理する。 ②ワークシートに書き出す。	・ワークシート③
4 学級活動	好きなものを日本語とスペイン語で紹介しよう	①グループごとに好きなものを日本語とスペイン語でまとめる。 ②スペイン語の発音を確認しながら紹介文を作り、発表練習をする。 ③動画を撮影する。	・ワークシート④ 
5 学級活動	ペルーの友だちとつながろう	①ペルーの子どもたちからのメッセージ動画を視聴する。 ②感想を話し合う。 ③もう一度伝えたいことを考え、ふりかえりを書く。	・メッセージ動画 ・ワークシート⑤

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1.ペルーの場所や特徴をスライドで確認する。世界地図を使って、日本との位置関係や環境の共通点(海に面している、地震がある)を簡単に説明する。	・時差など難しい内容はイラストで簡単に示す。 ・児童が発言しやすい雰囲気をつくる。	・Canvaスライド① ・世界地図
展開① (15分)	<b>ペルーと日本をくらべてみよう</b>		
	2.日本とペルーの町やスーパーの写真を、似たアングルで提示し、どちらが日本かペルーかを考える。「なぜそう思ったのか」理由も発表し、班で共有する。児童は「看板の文字」「商品の並び方」など、気づいた点を話し合う。	・写真は、児童が普段見慣れた場所などと比較しやすいものを選ぶ。 ・理由を聞くことで、児童の観察力や思考を深める。 ・班活動で全員が発言できるよう促す。	・Canvaスライド①(ペルーと日本の町・スーパー・店の写真)
展開② (10分)	3.ペルーと日本の実物資料(通貨、食品、衣装など)を手に取り、違いや共通点をワークシートに記入する。児童は「お金の形」「服の模様」などを比べながら、気づきを書き込む。	・衛生面に配慮し、安全なものを用意する。 ・児童が自由に触れられるよう机間指導を行う。 ・気づきが出にくい児童には「色」「形」「使い方」など観点を示す。	・実物資料 ・ワークシート①
まとめ (10分)	4.ペルーを表す言葉を考え、ワークシートに記入する。児童は「カラフルな国」「食べ物がにぎやかな国」など、自分の言葉で表現する。	・言葉が浮かばない児童には「一番印象に残った写真」を書くよう促す。 ・発表したい児童には簡単に共有させ、全体で振り返る雰囲気をつくる。	・ワークシート①

【授業実践の様子】



板書



世界地図を使う様子



写真を使った活動の様子



ペルーのものと日本のものを比べる活動の様子

## 【6】本時の振り返り

今回の授業では、児童がペルーと日本の写真や実物資料に強い関心を示し、目を輝かせながら活動に取り組んでいた。特に、スライドで提示した「どちらが日本でどちらがペルーかを考える」クイズ形式の活動では、児童が積極的に発言し、「看板の文字」「商品の並び方」など、理由を挙げながら考える姿が見られた。中には「ソル(ペルーの通貨)で何が買えるのだろうか?」とペルーの通貨に興味をもつ声もあり、異文化への関心が高まっていたことがうかがえる。

導入の世界地図を使った活動では、ペルーの場所を探す場面をゲーム感覚で行ったことで、児童の集中が高まり、楽しみながら学習に入ることができた。また、時差の説明はイラストを使ったことで、思ったよりも児童が納得して理解していた。

一方で、課題としては、児童の落ち着きがなく(週末の5時間目、ゲーム性のある活動、見学者やビデオ撮影の影響)、大事な説明を聞いていない場面があったことが挙げられる。今後は「探す時間」と「聞く時間」を明確に分けるなど、活動の切り替えをより意識したい。また、写真の量が多く、2時間分の内容を1時間で扱ったため、情報量が多くなった印象がある。次回は写真を絞り込み、学校や人の様子を扱う時間を別に設けるなど、構成を工夫したい。

児童は、日本とペルーの違いを単なる「良い・悪い」で判断するのではなく、複数の視点から考える姿が見られた一方で、ペルーのスーパーの包装が少ないことについては、日本の方が「野菜や果物がきれいに包装されていて、見た目がいい」という意見が多く、ペルーの良さ(ゴミが少なく環境に良い、好きな量で買える)にはあまり焦点が当てられなかった。この点は、次回以降、ペルー側の良さにも目を向けられるような問いかけや情報提示を工夫する必要があると感じた。

授業後の見学者からは、「子どもたちが身を乗り出して写真や実物を見ていた」「クイズ形式で楽しみながら学んでいた」「比較を通して日本らしさやアイデンティティに広がる可能性がある」など、肯定的な意見が多く寄せられた。一方で、「伝えたいことが多く、絞り込みが難しい」「学校や人の写真をもっと扱うとよい」「タブレットを使った写真提示もあり得る」など、改善のヒントも得られた。

全体として、児童はペルーに強い興味をもち、比べる活動を通して日本の文化にも改めて目を向けることができていた。次回以降は、情報量の調整や活動の切り替えを工夫し、さらに深い学びにつなげたい。

## 【7】単元を通して児童生徒の反応/変化

単元を通して、児童はペルーに対する漠然としたイメージから、具体的な生活や文化に強い関心をもつようになった。1時間目では、日本とペルーの町やスーパーの写真を見比べる活動で、違いの多さに驚きながらも、同じところがあることに気づき、学びを楽しむ姿が見られた。児童は、看板の文字や商品の並び方などを観察しながら、「違うところがいっぱいあったけど、同じところもあってびっくりした」と感じ、比較することで新しい発見をする喜びを味わっていた。また、ペルーの通貨や食品に興味をもち、「ソルで何が買えるのだろうか?」と考えるなど、異文化への関心が広がっていた。

2時間目では、ペルーの学校の写真や動画を見て「ペルーの学校に行ってみよう」と感じる児童が多く、学校生活の違いを知ることによって異文化への憧れが芽生えていた。さらに、授業者がスペイン語でペルーの子どもに話しかける様子を見て、言葉が通じることや助け合う姿に感動し、コミュニケーションの大切さを実感していた。

終盤の活動では、ペルーの子どもたちに自分の好きなものを伝えることに挑戦し、スペイン語で発表する際には緊張しながらも積極的に取り組んでいた。児童は「伝わってよかった」「ペルーのことを知れて嬉しかった」と感じ、交流を通して安心感や親近感をもつようになっていた。さらに、日本とペルーに共通する好きなものを見つけたことで、「同じものがあるのが嬉しい」「友だちになれるかもしれない」という気持ちが芽生え、異文化への距離感が縮まっていた。

授業外でも変化が見られた。大阪・関西万博のペルー館に行き、インカコーラを飲んだりペルーの文化に触れたりした児童がいたことや、宿題の自主学習でペルーについて調べてまとめる児童がいたことは、学習が教室を超えて広がっていた証拠である。また、「外国に行くならどこ?」という問いに、ペルーと答える児童が複数いたことから、学習を通してペルーが身近な存在になっていたことがわかる。さらに、ペルーの子どもが動画で日本のアニメや文化を好きだと話しているのを見て、児童がとても喜んでいただことも印象的である。こうした反応から、児童は単元を通して異文化を「遠いもの」から「親しみを感じるもの」へと捉え方を変えていった。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

児童の態度は、単元を通して「知りたい」「伝えたい」という意欲に大きく変わっていった。

1時間目の写真比較活動では、児童は最初、写真を見て違いを探すことに集中していた。看板の文字や商品の並び方など、目に見える違いを挙げるのが中心だったが、活動が進むにつれて「なぜ違うのか」という理由を考え始める姿が見られた。例えば、「ペルーのスーパーは包装が少ないのはどうして?」と問いかけることで、環境や文化の背景に目を向ける児童が出てきた。この段階で、学習は単なる比較から、違いの理由を探る思考へと広がっていた。

3時間目の好きなものの整理活動では、児童は「どうやってペルーの友だちに伝えるか」を意識しながら、自分の好きなものを選び、言葉にする工夫をしていた。単なるリストアップではなく、「相手にわかりやすく伝える」ことを考える姿が見られ、学習の目的が「知る」から「伝える」へと変化していた。

4時間目のスペイン語での紹介活動では、児童は緊張しながらも挑戦する姿が顕著だった。発音に不安を感じながらも、間違えても笑い合いながら練習し、互いに励まし合う様子が見られた。この活動を通して、児童は「伝えたい」という気持ちを強め、言語の壁を越えようとする前向きな態度が育っていた。

さらに、5時間目の交流活動でペルーの子どもたちから返事をもらったときには、共通の好きなものがあることに喜びを感じ、異文化交流への意欲がさらに高まっていた。

授業外でも、自主学習でペルーについて調べる児童や、「外国に行くならペルー」と答える児童がいたことから、学習意欲が教室を超えて広がっていたことがわかる。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

児童は、ペルーを「遠い国」「知らない国」として捉えており、世界の国々に対する関心は限定的だった。外国にルーツをもつ子どもとの関わりについても、深い理解には至っていなかった。

(授業後)

授業後は、ペルーの文化や生活を知ることによって親近感をもち、「日本にもペルーにも同じものがある」と気づき、違いを楽しむ姿勢が育っていた。さらに、好きなものを伝え合う活動を通して、「外国の人とも友だちになれるかもしれない」という気持ちが芽生え、多文化共生への意識が高まっていた。児童は、異文化を「特別なもの」ではなく「共通点をもつ身近なもの」として捉え、互いを尊重しようとする態度が形成されていた。大阪・関西万博でペルー館を訪れた児童や、ペルーに行きたいと答える児童がいたことから、学習が生活に結びつき、異文化への関心が持続していることがわかる。

【8】自己評価

1. 苦労した点

•児童が自分ごととして捉えられる学習にすること

単なる「外国の文化は面白い」という内容にとどめず、児童が「自分とつながる学び」として感じられるようにすることが難しかった。異文化理解を「遠い世界の話」ではなく、児童自身の生活や興味に結びつけるため、活動のテーマや問いかけを慎重に検討した。

•スペイン語活動のレベル設定

スペイン語は児童にとって日常的に使う言語ではなく、英語のような基礎知識もないため、難しすぎず、やる気を引き出せるレベルで何をさせるかを考えることに苦労した。児童が「できるかもしれない」と思えるよう、簡単なフレーズを選び、発音練習を取り入れる工夫をしたが、準備に時間を要した。

•交流動画のテーマ選定

ペルーの友だちとの交流動画で「何を伝え合うのが児童の異文化理解や興味を最も引き出すのか」を決めることに悩んだ。好きなものをテーマにしたが、児童が楽しみながらも学びにつながる内容にするため、絞り込みに時間を要した。

	<p>•<b>比較活動での声かけの難しさ</b> 日本とペルーの違いを扱う際に、児童が「日本の方がきれい」「ペルーはごちゃごちゃしている」と感じる場面があり、「どちらが良い・悪い」という単純な比較にならないようにするための声かけが難しかった。ペルーの良さに目を向けるための問いかけをもっと工夫する必要があると感じた。</p>
<p>2. 改善点</p>	<p>•<b>写真や情報量の絞り込み</b> 今回は見せたいものが多く、1時間に詰め込みすぎたため、児童が集中しきれない場面があった。次回は比較する写真を厳選し、活動の時間配分を見直すことで、児童がより深く考えられるようにしたい。</p> <p>•<b>活動の切り替えを明確にする</b> 「聞く時間」と「探す時間」をしっかり分けることで、児童が説明を聞き逃さないようにする。今回は落ち着きがなく、説明を聞かずに探すことに夢中になる場面があったため、切り替えの合図やルールを明確にしたい。</p> <p>•<b>ペルーの良さに目を向ける工夫</b> 日本の方を「良い」と感じる傾向が強かったため、ペルーの文化や環境の価値を考えられるような問いかけや情報提示を強化する。例えば、「包装が少ないとどんな良さがあるかな?」など、環境や生活の視点を意識した質問を取り入れたい。</p> <p>•<b>スペイン語活動の支援充実</b> 発音練習や簡単なフレーズの繰り返しを取り入れ、児童がもっと自信をもって取り組めるようにする。グループで練習する時間を増やし、教師が個別に発音をサポートする工夫も必要だと感じた。</p>
<p>3. 成果が出た点</p>	<p>•<b>学習が教室外に広がったこと</b> 児童がペルーに強い興味をもち、大阪・関西万博のペルー館に行ったり、自主学習でペルーについて調べてまとめたりするなど、学びが生活に結びついていたことは大きな成果である。</p> <p>•<b>異文化への親近感の形成</b> 「外国に行くならペルー」と答える児童が複数いたことや、ペルーの友だちからのメッセージに喜びを感じる姿から、異文化を「遠いもの」ではなく「親しみを感じるもの」として捉える態度が育っていた。</p> <p>•<b>スペイン語活動での挑戦と成長</b> 好きなものをスペイン語で伝える活動では、緊張しながらも挑戦する姿が見られ、間違えても笑い合いながら練習するなど、前向きな態度が育っていた。児童は「伝わってよかった」「ペルーの子と同じ好きなものがあって嬉しい」と感じ、交流の楽しさを実感していた。</p>
<p>4. 備考</p>  	<p>•今回の単元は、授業者が教師海外研修で得た経験を活かし、児童が「世界とつながる」体験をすることを目指した。異文化理解を単なる知識習得にとどめず、児童が「自分も関わられる」「伝えたい」という気持ちをもてるように構成したことは、今後の国際理解教育においても重要な視点だと感じている。</p> <p>•夏休みに授業者がペルーに行く前に、現地の小学校の子どもたちへのお土産として、学年で季節ごとの折り紙を折り、プレゼントを作る活動を行った。この取り組みは、単元開始前に児童がペルーとのつながりを感じられるようにするための工夫であり、夏休み明けにこの学習を始める際、児童がより興味をもって授業に取り組めるきっかけとなった。実際に、授業者のクラスでは「ペルーの子たちが、みんなが折ってくれた折り紙を喜んでいたらよ」と還元することができ、児童にとってペルーが身近な存在になる効果があった。</p> <p>•国立民族学博物館から、「みんぱく」という貸出サービスでペルーの民族衣装や楽器、民族写真を借り、授業開始の一週間前から学年共有スペースに展示を行った。また、1時間目の授業でも、ここで借りた民族衣装を使用した。実物資料は児童の興味を引くのに非常に効果的で、授業をより楽しいものにすることができた。自分ですべてを購入して準備するのは難しいため、こうした貸出サービスを活用するのは非常に有効だと感じた。ただし、貸出期間が一週間と短く、予約が必要なため、授業の時期と合わせる調整が難しかった点は課題である。</p>

添付資料:

ワークシート①～⑤

とくべつじやぎょう ペルーについて①  
2年( )組( )番

せかいのことを知ろう  
～〇〇な国 ペルー!～

①日本のものとペルーのものをくらべてみよう

くらべたもの	同じところ	ちがうところ
(れい) すし	・中にごはんとぐを入れて、まいている。 ・しょうゆをつける。	・ソースがかかっている。 ・卵が中に、おさしみがあまる。

②ペルーをあらわすことを考えてみよう

国 ペルー

③今日の学しゅうで、ここにのこったことを書こう  
(思ったことや考えたことなど)

---



---



---



---

とくべつじやぎょう ペルーについて②  
2年( )組( )番

せかいのことを知ろう  
～日本の学校とペルーの学校をくらべてみよう～

①インタビューにこたえて、自分のこたえとくらべてみよう

しつもん	こたえ
(れい) すきな教科 算数、体いく	
お昼ごはんは何を食べる?	
休み時間は何をしてあそぶ?	
体育では何をします?	
学校で毎日することは何?	
すきな食べものは?	

②今日の学しゅうで、ここにのこったことを書こう  
(思ったことや考えたことなど)

---



---



---



---

とくべつじやぎょう ペルーについて③  
2年( )組( )番

せかいのことを知ろう  
～ペルーの友だちにつたえよう～

①ペルーのともだちにつたえたい、あなたのすきなものを書こう

教科	すきなもの
べんきょう	
あそび(外)	
あそび(教しつ)	
食べもの(ごはん)	
食べもの(おかし)	
のみもの	
きょう食メニュー	
スポーツ	
アニメ	
キャラクター	
歌	
学校の行事	
ゲーム	
本	
なんでも	
なんでも	

とくべつじやぎょう ペルーについて④  
2年( )組( )番

グループ	すきなもの(日本語)	すきなもの(スペイン語)	メンバー
あそび①	バットまがし	バスカル サルタモンテス	
	ドッジボール	バロン プリシネロ	
あそび②	おにごっこ	フエゴ デル エスコディオ オ ビジャベリャ	
	おり紙	パビオフラシア オ オリガミ	
べんきょう	かん字のれんしゅう	プラクティカ デ カンジ	
	かけ算	ムルチプ)カシオン	
教科	国エ	アルナス プラスティカス オ マヌアリダダス	
	体いく	エトリカシオン フィシカ	
学校のきょうじ	うんどう会	デアア デル デゴルチ オ フエステイバル	
	えんそく	デゴルチーボ	
	カレー	エスクリシオン	
きょう食	ごはん		
	ハンバーグ	アンブルがサ	
キャラ	きめつやいば	キメツ ノ ヤイク	
アニメ①	ポケモン	ボケモン	
	マイクラフト	マイクラフト	
キャラ	ちいかわ	チイカワ	
アニメ②	ほしのこーピー	キルビ デラス エストレージャス	
のみもの	コーラ	コーラ	
おかし	チョコレート	チョコラテ	
	アイス	エラド	
スポーツ	やきゅう	ベイスボル	
	サッカー	フットボル	

とくべつじやぎょう ペルーについて⑤  
2年( )組( )番

せかいのことを知ろう  
～ペルーの友だちとつながってみて～

①今までの学しゅうをふりかえってみよう

1. 日本とペルーを、しゃしんやものでくらべる
2. 日本の学校とペルーの学校をくらべる
3. ペルーの友だちにつたえたい、日本のわたしたちのすきなものを考える
4. ペルーの友だちに、わたしたちがすきなものをつたえる
5. ペルーの友だちからのメッセージをうけとる (今日)

②ペルーの友だちからのメッセージをうけとって、どう思いましたか  
もう一ど、メッセージをおくるとするならば、何をつたえたいですか

---



---



---



---



---



---

③今までのペルーの学しゅうで、ここにのこったことを書こう  
(思ったことや考えたことなど)

---



---



---



---

参考資料:

貸出用学習キット「みんぱっく」(国立民族学博物館)

<https://www.minpaku.ac.jp/teacher/school/minpack>